

議案第 1 号

平成 28 年度地域公共交通確保維持事業の自己評価について

西宮市都市交通会議

事業名：平成28年度地域内フィーダ系統

目的 計画 目標 (P)

○事業の目的

生瀬地域にある全九つの自治会等で構成される「ぐるっと生瀬」運行協議会が、計画段階から主体的に関わり、専門家・交通事業者・行政等と協働して事業に取り組み、地域にふさわしい、住民目線で身の丈にあった持続可能なコミュニティバスの運行を目指すとともに、コミュニティバスの運行を通じて、生瀬地域が魅力的で活力ある地域となるよう目指す。

○計画内容

公共交通不便地域で地形的勾配が急である等の地域特性をもつ生瀬地域において、高齢者等の移動制約者の買物や通院等を目的とした生活移動手段を確保する。また、地域住民の多くが利用し、生活サービス施設が集積しているJR/阪急宝塚駅に接続することで、利便性の高い交通とする。

○定量的な目標

指標を一日あたり輸送人員とし、目標値を以下のとおり設定する。

- ・1年目(H28年度)：70人以上、2年目(H29年度)：85人以上、3年目(H30度)：100人以上(※採算ライン目安)

概要図・参考資料



■住民基本台帳人口(H28.9.30現在)

	西宮市	生瀬地域
人口	485,819人	8,772人
世帯数	218,897世帯	3,739世帯
面積	100.18km ²	5.72km ²
高齢化率	22.8%	29.4%

■地域公共交通会議の開催状況(書面協議含む、H27.4~H28.9)

- 西宮市
 - ・都市交通会議：1回
 - ・地域公共交通分科会：4回
- 宝塚市
 - ・地域公共交通会議：3回

アピールポイント、特に工夫した点など

- ◎バスが安定して運行していることから、自家用車の利用を控えたり、免許を返納する事例が出てきており、バスの時刻に合わせてお出かけをするなど、**ライフスタイルの変化**が見られる。また、少しの用事でも、このバスを気軽に利用し出かけるなど**外出機会の増加**に寄与したり、車内やバス停では利用者同士の会話が弾み、ひとやまちをつなぐ、コミュニティバスとしての役割を果たしている。
- ◎会報に地域情報も掲載することで、わがまちの関心を高め、**地域活性化**につなげようと工夫された。また、これまでバスに興味のなかった人も気軽にバスに関する情報に触れられるようになっていく。
- ◎マスコットキャラクターについて、キャラクター案を地域全体に対して募集、審査を行ない、着ぐるみの作製も住民自身で行うことで、愛着がわくよう工夫された。また、この着ぐるみを用いて、地域の各種イベントに参加し、バスの利用を促すとともに、このキャラクターが地域のシンボルとなるよう積極的にPR活動を行っている。
- ◎運行協議会の委員一人ひとりが得意なことを活かし、楽しんで利用促進活動等の取り組みに関わっており、各々の活躍が、組織を継続的に運営していくための強固な組織づくりへ貢献している。
- ◎事務所を開設したことで、委員が常に集まり、頻繁に意見を交わすことができるようになった。時には、委員以外の地域住民も参加しており、今後、バスの運営等の**新たな担い手**として期待される。
- ◎平成28年地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰、あしたのまち・くらしづくり活動賞(兵庫県：優秀賞,全国：振興奨励賞)、人間サイズのまちづくり賞(知事賞)を受賞し、全国的にも注目されている。

具体的取り組み (D)

左記の目標を達成するため、「ぐるっと生瀬」運行協議会が主体となり、活動の展開と利用促進を実施した。

- 地元会議を毎月開催**し、運行状況の確認や**利用促進活動**等の実施方法について協議した。
- 会報を二ヶ月毎**のペースで発行し、生瀬地域内に**全戸配布**した。
- 車内やホームページに日々の利用者数等を掲載し、目標達成のための啓発に努めた。
- マスコットキャラクター**を募集し、**着ぐるみ**を作製。各種地元イベント等に参加し、利用を促した。
- 地元の保育園や幼稚園・小学校・中学校へ出向き、乗り方教室の実施や地域で守り・支える大切さを説明。
- 事務所を開設**し、メンバーが常時集まれる環境を整え、**活動の拠点**とした。
- ラジオやCATVにて、不特定多数にPRした。地元企業に呼びかけてPR活動の協力を求めるとともに、毎月、宝塚駅前にてPR活動を実施した。
- 自治会単位で座談会**を開催し、運行計画の説明や要望等の把握に努めた。 etc

取組みに対する評価 (C)

運行計画の作成から利用促進の実施に至るまで、「ぐるっと生瀬」運行協議会が中心となり積極的に取り組んだことで、**輸送人員は目標を大きく超えており、「ぐるっと生瀬」運行協議会の活動が最大の役割を果たした**。また、**収支比率は約88%**という高い水準となっており、自分たちの交通という認識が芽生えたと同時に、経営感覚を持って取り組むことができている。さらに、住民自らがコミバス運営に携わることで、このバスへの愛着と地域への愛着が相互に高まり、**地域を盛り上げる起爆剤**としてコミバスが機能していると判断できる。

また、地域が積極的に取り組み、地域が盛り上がっている貴重な事例として注目され、関係各課との各種調整等が円滑に進みやすい環境となっており、支援の幅が広がったり、継続的な予算的支援についての庁内合意が得やすい状況となっている。

目標達成状況(H27.10~H28.9)は以下のとおりである。

指標	目標値	実績値	達成率
一日あたり輸送人員	70人/日	83.7人/日	119.6%

※直近の第2回有料試験運行では、66.8人/日であった。

自己評価から得られた課題、対応 (A)

- 「ぐるっと生瀬」運行協議会の取組みが、交通以外の分野(ex.まちづくり)にも広がりを見せていることから、庁内の関係各課とも上手く連携しながら、持続可能な運行に向けた支援を行う。
- 定量的な目標については、1年目の目標を大幅に達成できたので、次年度以降も利用促進活動等を継続的に実施し、持続可能な運行に向け、さらなる利用者の確保が図られるよう支援する。また、「ぐるっと生瀬」運行協議会では、利用状況や利用者の声等を参考にし、利便性と採算性を考慮に入れながら見直しを行うとしており、より適切な運行計画となるよう適宜アドバイスなどをとする。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月 日

協議会名: 西宮市都市交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
阪急タクシー株式会社	生瀬高台系統 【車両減価償却費等国庫補助 金交付対象】		A 事業が計画に位置付けられ たとおり、適切に実施され た。	A 事業が計画に位置付けられ た目標を達成した。 【目標】 一日当たり輸送人員70人以上 【実績】 一日当たり輸送人員83.7人 【達成率】 119.6%	・一日当たり輸送人員の目標と して、1年目(H28年度)は70人 以上、2年目(H29年度)は85人 以上、3年目(H30年度)は100人 以上確保することとしている。 (直近の試験運行における一 日当たり輸送人員の実績は67 人) ・今年度は、目標達成のため、 地域住民に対し、運行の周知 活動及び利用促進活動等を精 力的に実施した。 ・その結果、1年目の目標を大 幅に達成するなど、一定の成 果が得られた。 ・次年度以降も、目標を達成す るため、利用促進活動等を継 続的に実施し、さらなる利用者 の確保を目指す。
阪急タクシー株式会社	宝生ヶ丘系統 【車両減価償却費等国庫補助 金交付対象】				
阪急タクシー株式会社	青葉台系統 【車両減価償却費等国庫補助 金交付対象】				
阪急タクシー株式会社	青葉台・サーパス系統 【車両減価償却費等国庫補助 金交付対象】				
阪急タクシー株式会社	花の峯系統 【車両減価償却費等国庫補助 金交付対象】				
阪急タクシー株式会社	花の峯・サーパス系統 【車両減価償却費等国庫補助 金交付対象】				

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年1月 日

協議会名：	西宮市都市交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>市内には最寄りの鉄道駅やバス停留所への移動が困難な地域が点在しており、その中で生瀬地域は、山間部に位置していることから地形的勾配が急で、徒歩や自転車による移動が困難な地域となっている。また、当該地域の高齢化率は約29%（平成28年9月30日現在）と高く、自動車による移動が困難な高齢者等に対する日常生活に最低限必要な移動手段の確保が喫緊の課題となっている。さらに、当該地域の最寄り鉄道駅周辺には、日常的な買物ができる小規模な店舗が1つあるのみで、多くの住民が必要とする医療、福祉を含んだ生活サービス施設を利用するためには、他の鉄道駅まで移動する必要がある。</p> <p>そこで、当該地域の住民は、最低限必要な移動手段の確保を地域の課題と捉え、コミュニティ交通の導入により課題解決を図ることとし、全九つの自治会等で構成される「ぐるっと生瀬」運行協議会を組織した。その後、持続可能な交通の実現に向け、合意形成を図りながら、地域住民が主体となり運行計画を策定し、平成27年10月1日より本格運行を開始した。</p> <p>このように、地域住民が計画段階から主体的に関わり、専門家・交通事業者・行政等と協働のもと、その地域にふさわしい、住民目線で身の丈にあった持続可能なコミュニティ交通の運行を目指すとともに、コミュニティ交通の運行を通じて、魅力的で活力ある地域の形成を目指す。</p>